

SINAPIS



社会活動センター・シナピスは平和を実現する使命に向けて生きる人びとを応援します

月刊シナピスニュースレター

Vol.
74

2022.7

年間テーマ ～ 互いに耳を傾けよう ～



地上でもっとも小さいといわれている種子、それがシナピス(からし種)です。イエスは神の愛がすべての人にあよび、互いに尊重し合い、愛し合うように願って平和の種をまき、やがて鳥が巣をつくるほどの大きな木になると約束しました。

カトリック大阪大司教区
社会活動センター・シナピス

TEL/06-6942-1784 FAX/06-6920-2203
Email/sinapis@osaka.catholic.jp
ホームページ/<https://sinapis.osaka.catholic.jp/>

今月のテーマ

戦争と平和を語り合う

写真の説明：沖縄に思いを馳せて
(大阪教区本部事務局玄関 ディスプレイ)

老いぼれ雑魚

2020年10月3日、アジジのフランスコの祝日の前の晩に、教皇は「fratelli tutti」という題の回勅を発表された。本回勅は、早速翻訳され、出版されている。その翻訳のご苦労に心から敬意を惜しむものではない。読者の一人として感想を書かせていただく。まず、わたしは高齢に達し、普通の文字は読むことができない。それゆえ印字を大きくしたり、濃くしたりできないものだろうか。また、どうしてハードカバーにするのか。老体の肩には重すぎる。高齢者は兄弟ではないのか。

つぎに1)で、「フラテッリ・トゥッティ」を、かっこに入れてだが、どうして「兄弟の皆さん」とお話しになったのか。これは、「皆が兄弟」とも訳すことができる。前者の翻訳では読者への呼びかけで、本書の本題がそれに続くものと期待を抱かせるのではないか。しかし、その本題はないことになるのではないか。それゆえ、それを翻訳するなら、「皆が兄弟」とすべきではないか。ただし、アジジのフランシスコが「フラテッリ」と言ったとき、この用語は現代語のブラザー（英語）とも、フレール（仏語）とも、ブルーダー（独語）とも訳せない。そうなら日本語の「兄弟」とも訳せないのではないか。さしあたり、わたしは、「皆が兄弟」の意味で理解し、読んでみる。この回勅を理解するために、大切な鍵ことばとして「壁」がある。「皆が兄弟である」のに、「壁」がある。この観点から、この回勅を讀んではいかがでしょうか。

「壁」というと、中南米で生活できなくなった難民が、北米のアメリカ合衆国を目指して、長くて苦しい旅に出た。その行き着くところにあったのは、何千キロと続く国境に沿って作られた鉄の壁であった。その国境の向こうには、フランス革命で獲得した基本的人権、自由、博愛＝兄弟愛、平等を標榜する合衆国がある。鉄の壁は、その基本的人権の拒否ではないのか。イタリア移民の子孫である教皇フランシスコは、その現実には怒りを抑え涙をこらえて、この回勅をお書きになったのではないか。北米だけではなく、ヨーロッパに目を向けると、生活環境を奪われたアフリカの難民が地中海を渡って押し寄せてきた。西欧諸国は国境を閉鎖し、長い壁を作った。日本ではどうか。20世紀の終盤から21世紀の今日まで、アジア諸国や南米から、多くの労働者を迎えた。しかし、我々は彼らを、不足する労働力の補いとしてしか考えてこなかった。教皇の怒りと涙は我々にも向けられているのではないか。それはシナピスの怒りでもあり涙でもある。

ニュースレター 目次

- 1 巻頭言
- 2 子どもの本で平和をつくる③
- 3 子どもたちに伝えたい平和<後編>
- 5 水平社宣言100周年シンポジウム報告
- 7 障がい者委員会より
- 8 ちょっと聞いて
- 9 時報7月号より
- 12 戦争と平和 DVD・書籍案内
- 13 助けあう(ロキアさん特集)
- 15 ホームだより
- 17 祈りのつどい報告
- 18 シナピス工房だより
- 19 ガリラヤの風
- 20 シナピスの風
- 21 みんなのけいじばん
- 23 あとがき

チラシ・ご案内

- ・シナピスの風
- ・7月の祈り
- ・忘れないあきらめないカレンダー
- ・カトリック那覇教区沖縄慰霊の日メッセージ
- ・船員の日メッセージ
- ・宗教者ネットワーク 死刑廃止セミナー案内
- ・堺原爆展一核なき世界へー
- ・堺平和のための戦争展2022
- ・学習会「天皇制のAとQ」
- ・映画「ゆめパのじかん」
- ・じんけんSCHOLA 市民のための人権大学院
- ・経口中絶薬の承認反対署名

年間テーマ

～互いに耳を傾けよう～

これは教皇フランシスコが数々のメッセージの中で、私たちに何度も呼びかけていることばです。身近なことから世界に至るまで、互いを思いやれないことで生じる衝突が後を絶ちません。この言葉を受け、交わりを通して互いを理解し尊重しあえる平和の実現を目指します。このニュースが皆さまと一っしょに考え、わかちあいの場となることを願っています。

子どもの本で平和をつくる ③

多湖敬子

ある国の王が、年老いて自分の死が近いことを悟ると、次の王を国民で決めるようにとおふれを出しました。お金持ちで立派な金のたてがみを持つライオンは、自分こそが王になる資格を持っていると思っていました。ところが、街はずれに住む銀のたてがみを持つ優しいライオンが「次の王様候補」との噂を聞きます。金のライオンは偵察に行くことにしました。そこで、銀のたてがみを持つライオンが仲間に親切にするとところを目の当たりにします。このまま放っておけば、銀のライオンが王に選ばれてしまうのではないかと危機を感じた金のライオンは、自分で怪我をしたのに、銀のライオンにやられたとか、銀のライオンが仲間に乱暴をしたとか、有ることないことを吹聴して回ります。最初は信じなかった他の動物たちも少しずつすこずつ、そうかも知れないと思うようになります。

— 転がる雪玉のようないきおいで、噂はたちまち膨れ上がった。そして噂は、いつの間にか尾ひれをつけて、一人歩きし始めたのである。 —

王国の動物たちは、噂をほとんど確かめもせず信じ、金色のライオンが次の国王に就きました。しかし、金色のライオンの自分勝手な政治のため、国は滅びてしまいます。国が崩壊した後の動物たちは口々にこう言います。

「僕はただ、銀のライオンに気をつけてって聞いたから、仲間に教えただけだよ」

「私だって、なんとなく心配だったから、家族に知らせただけだよ」

「おいらだってちょっと気になって、メールを転送しただけさ」

野ネズミひとりだけが「僕は聞いた話を、友達に教えてあげただけなんだよな。でも、自分の目で何か一つでもたしかめたっけ……?」「ほんとうに、金のライオンだけが悪かったのか……?」と疑問を投げかけます。(— 「」内は本文)

金色のライオンの他には、悪意のあるものは誰ひとりとしていなかったのです。それなのに何故?

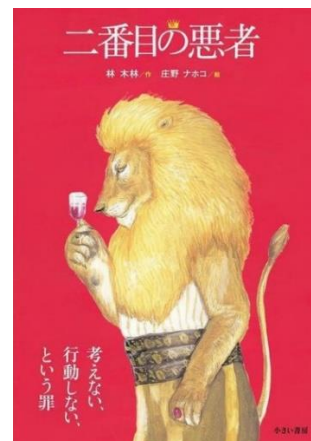
この物語は、現在の世相を反映しているのではないのでしょうか?

ジャーナリストであり、ノーベル文学賞作家スベトラーナ・アレクシエービッチさんは「普通の人々が戦争を始めるわけではありません。戦争を始めるのは政治家なのです」また「ロシアの人々はまともな情報を入手できていないのです」と語ります。(NHK・ETV特集「ウクライナ侵攻 私たちは何を目撃しているのか」)

ロシアの人々のみならず、日本の人々もまともな情報を入手できていないのではないのでしょうか?このたびの戦争のことだけではなく、先の政権下におけるさまざまな疑惑が解明されていません。私たちはたびたびニュースで黒く塗りつぶされた文書を目にします。その中で、何が真実なのかを目を凝らして知っていかなければならないのです。現政権においても、防衛費を増やし、改憲をし、戦争が出来る国に近づけようとしている動きを、私たちは止めなければいけません。そのために私たちにできることは、戦争が出来る国にしようとしている政治家に「待た!」をかけることです。その一つの方法が選挙に行くことです。私が考え、私が選んだ人に一票を投じることです。しかし、外国籍であるがゆえに、日本で生まれ育ちながら選挙権を認められない人たちがいます。難民・移住者の方々もそうですね。そういう人たちとも、未来の選挙権を持つ子どもたちとも、日本がどういう国になってほしいかを共に考えてほしいと思います。

カバー表紙に書かれている「考えない 行動しない、という罪」を犯さないために。

たくさんの方が利用している SNS。誰もが思っていることを簡単に発信できるツールです。でも、これは、自身で考えることをしなくなるという危険性も孕んでいます。Twitter では自身で呟かなくても、他人の考えをリツイート機能などで、何も考えずに拡散できる時代なのです。そんな時代を生きる私たちは、何が正しいことなのかを識別する賢さを持たなければなりません。『二番目の悪者』にならないために。



二番目の悪者

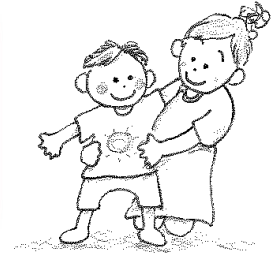
作：林木林

絵：庄野ナホコ

出版社：小さい書房

価格：¥1800+税

子どもたち 伝えたい平和



朝鮮半島北部からの引揚げ 薄れゆく記憶の中のスクラップ 後編

山田美保子(那覇教区)

3月～4月ごろ引揚げ開始。貨車を乗り換えを繰り返す、その後、歩くことになるが、野宿を繰り返す。行けども行けども野原や畑ばかり店どころか民家も見当たらない、弟の足に合わせるので集団にとり残され、次の集団、次々と。牛車の後ろに乗せてもらったことも。いくら寒さもやわらぐ。そして5月に入った頃、後から男の子9才5才2才の3人。ケンちゃんの下の子をおぶって歩いていた。母親は「朝死んだ」と。父はもっと前とか、熊本に行くと言った。けなげさに胸詰まる。母が力になることにした。これまで食の記憶がまったくない。それでも歩ける。ようやく川が見えた、イムジン川38度線と聞いた。みんな川岸で渡し舟を待っている。我々6人も乗ることが出来た。渡り切ったころは夕方小雨も降り出した。母はある民家に頼んで泊めてもらうことにした。ゆうふくではない様子。家具も古いようだ。おじいちゃんと20歳くらいのお姉さんと15歳くらいの男の子。奥の部屋の事はわからない。われらのようなみすぼらしく、しかも6人を受け入れてもらった。温かい食事と古いが寝具まで準備して、母とどれだけ言葉が通じたかわからない(愛である)。もし真逆だったら私にこのようなことが出来るとは思えない。当時の私の頭の中では、神様が現れた、そんな気持ちだった。朝食までいただき、お礼を云って駅目指して歩く。京城に着くまでの記憶なし。そこで引揚者のための事務所らしきところでケンちゃん兄弟をあずける。別れたくないが後ろ髪引かれる思いであとにした。列車で釜山へと向かうと。気が付いたらお寺らしきところにいた。港へ、いよいよ本当にいよいよ本当に乗船なのだ。が、21年6月上旬だったろうか、洗車のように頭からDDT。引揚者なら全てが受ける、え?これ何、息を止めて白粉のシャワー。弟は?

釜山港で一週間位、博多港に着くも三日程、その間母は動けなくなっていた。船のステージで船員さんが「赤いリンゴ」を唄っていた。私は目を見張った。長いこと唄など耳にしたことがなかった。日本がこんなに明るくなったと思った、下船開始。母は甲板に出ると力尽きてくずれてしまった。タンカで降ろされ病院へ直行。もし

渡航中だったら、または上陸してそこから離れていたらと、何か守られていると感じた。ベッドで診療を受ける意識もうろうのなかでありながら諸が食べたい、高菜の漬物が食べたいといふ。きっとふる里を思い出したのであろうか。今まで一言も口に出したことはなかった。日本の土をふんだことに気が付いたらしい。お伊勢参りもしたいと。私は声が出ない。「元気になったら行こうね」が云えない。お伊勢参りが最後の言葉だった。1月30日。私と弟は取りすがって泣いた。先生が「泣くな」と一言云ってしばらく立っておられた。「あなた達はまだやらねばならないことがある。くじけるな」と背を押されたように思えた。私は心を切りかえた。そして火葬場へ。母は藤色の着物を着せてもらい木製の棺におさめられていた。「おかあさんきれいよー」。フタは開けたまま、私と弟もトラックに乗り込む少しの間でも見られるようにと開けてあったのだろう。もう一方は閉めてあり、付き人はいなかった。お骨をひろい病院で手つづき。母の実家と連絡が取れて叔父が迎えに来た。父と妹の遺髪（母が肌身はなさずもっていた）と共に実家のお墓に納骨すませる。苦しかった旅は終わり、私は役目を無事はたすことが出来た。

筑紫病院の先生、看護婦さん方々、心より感謝申し上げます。又、イムジン川の近くで泊めてくださったご家族、北で牛車にのせてくださった方のご子孫のご多幸を心から祈ります。

ナガサキ原爆「焼き場に立つ少年」は3人の男の子ケンちゃん兄弟を思い出す。無事に熊本に帰れただろうか。「アサ子ー」の声は今も聞こえる。大戦で亡くなられた方々の魂（父と妹も）は、千の風になってきっとそれぞれのふるさとの空を吹きわたっていることでしょう。

2021年7月

山田美保子 87才



人の世に熱あれ、人間に光あれ

部落差別と人権担当 長崎 壮



人間を尊敬することを通して自らを解放しようと全国から京都の岡崎公会堂に集まった被差別部落の青年たちによって、水平社宣言が宣言・採択されてから百周年に当たる本年は全国水平社の意味を改めて学ぶ行事や各メディアを通しての報道が活発に行われています。

そのような気運のなかで、6月11日(土)午後2時からサクラファミリアにおいて「水平社宣言100周年シンポジウム」が開催(カトリック大阪教会管区部落差別人権活動センター・日本カトリック部落差別人権委員会の共催)されました。

講師は大阪人権博物館館長の朝治武さん、水平社博物館館長の駒井忠之さん、そしてコーディネーターを名古屋教区の松浦悟郎司教が務めました。開催にあたって挨拶に立たれた長崎教区の中村倫明大司教の「水平社宣言は日本だけでなく世界でも初めてのマイノリティ側からの人権宣言である」との言葉から今回のシンポジウムの意義の大きさがうかがわれました。

朝治さんのお話は「水平社宣言の成立」に関して、宣言のみではなく綱領や則、決議にも触れて趣旨の全体像を示すというものでしたが、差別に関する今日的な問いかけもありました。そのひとつは、明治以降の近代ではそれまでの身分制度や血縁による差別は法制上姿を消したように思われますが、職業、教育的な背景、そして暮らしぶり(経済格差)などさらに複雑化して残っているということです。

駒井さんは水平社宣言のキーワードとなる「熱と光」の意味について、そこに起草の中心となった西光万吉の宗教観を交えて論を展開されました。

浄土真宗の寺に生まれ、仏教的な思想の中で育った西光万吉は聖書にも造詣が深く、水平社宣言の中には聖書的発想も混在しているとの駒井さんの指摘はキリスト者として興味深く聞きました。「光」とは人間の尊厳を覚醒させるものであり、「熱」とは人の心の温かさです。

差別を受けるマイノリティが委縮することなく、自らのアイデンティティを否定することなくありのままに生きること、そして人に対して友好的な温かい生き方ができる社会を目指すというメッセージが水平社宣言の目的があったのではないかと結論づけられました。

二人の講師のお話に通じていたことは、水平社宣言が被差別者側からの痛みの叫びであるだけでなく、人を差別することは差別する人自身の人格の尊厳をも貶めることにつながるということです。いまだ様々な形での差別が残る現代において、水平社宣言に込められた思想はいまでも多くの示唆を与えてくれます。

シンポジウムに参加して



**「私の頭ではついていけなかったけど、
差別に対する理解を深める勉強をしたい」**

山田直保子

高校生の時に、友達の家遊びにおいでと言われ、お家にお邪魔し友達と遊んでいたら、お父様が帰ってきて私をギロリと睨み、「村の人間以外、入ってくんない」と追い出されたことがあります。友達は「友達なんだからいいでしょ」と泣きながら言っていました。そして「ごめんねごめんね」と友達が謝るのにも違和感がありました。

帰ってから母親に、「村って何なん？めっちゃ怒られてんけど」と言うと「ああ、あそこはいわゆる部落だから」ともごもご言われました。「部落って？」と聞くと、答えられないのか何も言わずでした。納得できないまま部落差別ということがどういうものかわからないまま生きてきました。

私の住んでる近くには、道路補修が盛んな場所があり常にきれいにしています。友達から「あそこは部落の人間がやかるから徹底的に整備されている。羨ましいよね。贅沢に暮らしてはる」と聞きました。それもよくわからないままです。今回は部落差別について理解できる研修会に参加できると思っていたのですが私の頭ではついていけず、勉強内容も少し「怖い」と感じました。今後も引き続き、私自身の中にある偏見について、また差別に対する理解を深める勉強をしたいと思いました。



**「心の中にある差別をなくすこと、
それは相手を自分と同じく大切にすること」**

右知子

私の被差別部落についての知識は、中学校の宗教の時間で学んだくらいです。そしてその授業の直後にクラスメートが泣き崩れてしまい、こども心にとってもデリケートな問題で話してはいけないような印象が強く残り、その後自分から積極的に学ぶ機会もありませんでした。

今日のシンポジウムの内容は初心者私にはとても難しくすべて理解できたわけではありませんが、一つ心に残った言葉があります。それは、「人間の尊厳を守ることで自己の中にある差別を克服する」です。講師の方も言われていたように、人の心の中の差別を無くすのは難しいですが、人間の尊厳を守ることを中心に考えることで差別を無くしていけるのだと理解しました。人間の尊厳を守るとは、相手を自分と同じく大切にすること。私たち人間は神様が『良し』として造られた者で、神様の前に全員平等であるという信仰に支えられながら人に接することで自分の中にある差別意識がなくなっていくと思いました。しかし頭で理解することとそれを実践することは別で、その実現はとても難しいとも思いました。それゆえ現在も人種差別や宗教差別、地域身分の差別など様々な差別があり、次々と増えているのではないかとまで思うほどです。

幼いころからミッションスクールで「隣人を愛す」ということを学んできましたが、今日それが差別を無くす社会づくりの基礎になっていたと改めて実感しキリスト者として歩む道がまた一つはっきりとしたように思いました。今後は今日の気づきを自分からも発信して差別の無い社会の実現を目指していきたいと思います。

「エッフアタ！」考」2

障がい者委員会 吉川康夫

親友が亡くなった

古希を迎えて同年代の友が次々に亡くなって行く。死生観を考えるようになった今日この頃、2人目の親友が亡くなった。一人目は、日航の墜落機にご家族と一緒に乗っていた。2人目の親友は、私と同じ次男である。お兄さんの葬儀のために神戸に帰ってきた通夜の日に亡くなった。告別式に4人の友が集まった。

そのうちの1人が、1年間の入院を経て難病から復帰した。同じ時期、同じ病気の同じ症状の知人は1年間も入院ができなくて亡くなったと聞いた。

その告別式の次の日曜日、「イエスの栄光」についての説教を聞いた。人間の栄光とイエスの栄光は、異なる。説教の中で、病気に罹患したある会社員が、会社の産業医に病気を知られまいとした。会社に知られては、盛り詰めた栄光が失われてしまうという話をされた。イエスの栄光とは、まるで異なる次元だ。

さて、私の友人は運良く病気を克服できた。しかし、難病や障害を持った人たちはどうだろう。イエスの癒しの物語には、たくさんの病気や障害の人が登場する。その病気や障害が癒されることだけに目を向けるならば、それは福音的ではない。イエスが天を仰いで“エッフアタ！（開け）”と言われたのは、病気や障害が治ることだけを障害の「解放」と考えている障害を持つ人たち自身ではない、聞こえている人たちにこそ言われたのではないだろうか。イエスの下に聞こえない人を連れてきた善意の人々にこそ“エッフアタ！”と、言われたのではないだろうか。

また、「閉ざされた心を信仰的に開く」という考えも、病気の人や障害を持つ人を置き去りにしてしまう安易な考えだと言わざるを得ない。イエスは、社会から隔絶された人、貧しい人、病気や障害を持つ人たちを一貫して友として一緒に食事し、交わりつづけられた人だ。

話は元に戻って、告別式の後4人で会食した。コロナ禍でもあり、同じ皿をシェアすることは止めて、それぞれが定食を注文した。高校卒業以来という友もいた。若い時は、話が合わなかった友もいた。お金儲けの話ばかりしていたからだ。それが、親友が亡くなったことがきっかけで交わりができた。

早くコロナ禍が収束し、障害のある人もない人も、病気の人でもそうでない人も、一緒に食事をしたり、握手したり、抱き合ったり、話し合ったり、交わりたいと願う。





教会共同体のみなさまの
さまざまな取り組みを
ご紹介いたします。
「ちょっと聞いて」「聞かせて」
そんなふれあいの場になったら
いいなと思います。

琴線に触れて

相生教会 清水 康子

2022年2月24日、ロシア軍が突如ウクライナに侵攻したとテレビ、新聞の報道で知りましたが、また諍いが始まったのか嫌だなと思いつつ頭は次のニュースに切り替わっていました。暫くして3月15日の夕方、ポーランドのシスターテレサ・グリックマンから電話があり「勤務先の修道院はウクライナまで60km位の距離にあるが、毎日空爆の音が響いて生きた心地がしない。ウクライナからの避難民はおよそ300万人位で、まずシャワー、着替え、薬、それに食事のスープを作って届けているがすべてが不足している」と。もっと詳しく知りたいので矢継ぎ早にいろいろ質問しても要領を得ません。若ければすぐにでも飛んで行って手伝いたいけれど82歳では足手まといになるだけだし、私が何をしたらいいかと聞きました。物資を輸送するのは難しいだろうからお金で支援してもらえると有難いとのことでした。すぐに相生教会主任司祭の大久保武神父に大阪大司教区の考えを聞いたところ、各々がカリタスジャパンを通して支援すると言われ、ではシスターテレサのSOSに有志で支援するのはどうかと聞くと「いいでしょう」とのことでした。この言葉に勇気を得てすぐに、日頃から協力してくれている人たちをお願いをして回りました。

相生・網干教会の人達は隣接するテレジア幼稚園・マリア幼稚園で働いていたシスターテレサをよく知っています。二週間足らずで40万円余りが集まり第一回目としてすぐに送金しました。これでは十分ではないので姫路・赤穂教会にもお願いしました。こちらは、ポーランドに本部がある「神のみ摂理修道女会」に所属しておられるシスターテレサが、日本での25年余りの勤務を終えて帰国することが決まった時に「美しい私の国をぜひ見てほしい、連れていきたい」と言われ、2016年のクリスマスに関東・関西・ドイツから15名が訪問しました。その時にご一緒の方が中心になって呼びかけて下さり、教会全体の取り組みにと輪を広げてくれました。27万円も。驚きを禁じ得ませんでした。第二回目の送金です。1円は0.03ポーランドズウォティで、すべて日常生活の必需品に役立てられたと聞きました。

先日、シスターテレサからお礼の葉書が届きました。「ウクライナの人たちのために、沢山の支援と応援そしてお祈りをしてくれた優しい日本の皆さんに感謝します」と。日本語で丁寧に心をこめて書かれたその筆跡から、多少でも応援ができてよかった、でもこれで終わりではないと思われました。

事態は終息するどころかますます泥沼化しています。国際社会も手をこまねいているわけではないのですが、間もなく4か月になるのに避難民の生活は改善されません。ボランティアの支援者たちも心身ともに疲労困憊してきていると聞きました。5月末でウクライナから逃れた難民の数は670万人を超え、そのうち355万人をポーランドは受け入れています。

ある日突然、謂われない仕打ちを受けて命を取られ、家を失い、国を追われた人たちのために私たちはなすすべはないのでしょうか。神さまに祈りながら、これからも模索が続きます。ウクライナやロシアまたこの戦争に関わっているすべての人たちが日常を取り戻し、平和に暮らせる日が一日も早くきますように。

イエスにならう生き方を求めて

悩みを持つ人々の痛みに寄り添い、
その悩みを少しでも分かち合うことのできる、
教会共同体をめざして

日本カトリック司教団著「いのちへのまなざし」
増補新版より

和歌山県田辺市の戦跡 ～「やましき沈黙」がもたらすもの～

「NHKスペシャル 特攻“やましき沈黙”」（2009年放送）から

紀南ブロック担当司祭 石井望

紀伊田辺教会では地元の市民グループが主催する「ピースフェスタ」に教会として参加してきました。2012年に赴任した石井望神父は、戦争体験者の証言が掲載された地元紙を読んだのがきっかけで関心をもった、紀伊田辺付近の戦跡を調べて地図に起こし、資料を作成、展示しました。その一部をご紹介します。

アジア太平洋戦争末期、昭和19年(1944)10月に始まった「特攻」作戦。人間が兵器と一体化して敵に体当たりする生還の可能性のない攻撃作戦のことです。この作戦で戦死した将兵は5千人以上、そのほとんどが20代でした。かつて「特攻」は将兵たちの熱意から志願して生まれたと伝えられてきましたが、実はそれより1年以上前から軍の内部で組織的に計画されていた事実が、「海軍反省会」の記録から判明しました。多くの将校が間違いと知りながらこの作戦を黙認した責任も明らかになりました。ある将校はこれを「やましき沈黙」と呼びました。このことを伝えるNHK番組のキャスターは、これは過去の話ではなく、組織が過ちを犯そうとしていると知りながら、有力者に付度したり自己保身のために黙認しがちな今の私たちを戒めるものだ、という趣旨の言葉で締めくくりました。


私は2012年に和歌山県南部の紀伊田辺教会に転任し、毎年8月に地元の市民グループが主催する「ピースフェスタ」に教会として参加するようになりました。また、高齢化していく戦争体験者、証人の言葉を地元紙が連続掲載するのを読んだことがきっかけで、田辺近辺の戦跡に関心を持ち、調べ始めました。市の歴史民俗資料館では戦跡に関してはほんのわずかな展示しかなく、特に「特攻」に関係する「田辺海兵団」や「震洋基地」「桜花基地」計画などは、関心のある人以外はほとんど知らないようです。

「負の歴史」は隠されて忘れさせられるのだろうかと思うほどでした。「負の歴史」をどう受け止めるかは、過去の出来事に関する問題ではなく、今の私たちの問題、生きる姿勢の鑑のようなものだと感じます。そして「過去を振り返ることは将来に対する責任を担うことです(教皇ヨハネ・パウロ2世、広島『平和アピール』1981年)」と。下の戦跡地図は、現地に案内表示や説明板のないものがほとんどです。

紀南の戦跡 <田辺海兵団/特攻基地建設/海岸防備隊駐屯地/爆撃・戦災>

アジア太平洋戦争末期に本土決戦、特に大阪・神戸への米軍艦船を迎撃するために串本、周参見(すさみ)、田辺、由良(白崎の回天基地)、紀淡海峡など、紀伊水道の要所に新たな軍事施設が計画された。

田辺にはそのような時期の「特攻」に関連する施設建設が多く計画された。

 田辺海兵団：1945年2月1日に大阪海兵団(海軍初年兵の養成所)の分団として開団した。日本14団中で最後に設置された海軍特別志願兵に応募する日本人の不足を補うために、朝鮮半島・台湾出身者16歳以上に募集枠を拡大した。入団者3000人のうち、台湾出身者100人、朝鮮半島出身者が800人を占めた。同年5月1日には田辺海兵団に昇格独立、同25日には本土決戦に備えて防衛基地の役割を担う田辺警備隊となり、さらに6月1日には第六特攻戦隊が編成された。B29の来襲爆撃が相次ぐため、初年兵養成教育機関としてはほとんど機能しなくなったという。7月28日には海兵団兵舎の十数棟が消失、約30人が死亡した(海兵団跡は終戦後に南方から関西方面に帰還するための引揚港となり、引揚援護局として使用され22万人が利用した)。



公共施設等の接収と軍の駐屯：軍事特別措置法の施行により、各国民学校、寺院などが接収され、特攻基地建設や迎撃のために海兵団の兵士や陸海軍の部隊が 50 人か

ら数百人ずつ駐屯するようになった。人口数万人の田辺近辺に配備されたのは、田辺海兵団、警備隊、特攻隊傘下の兵士だけで 20,000 人に上った。



特攻基地計画①：田辺湾を望む小高い丘には、敵艦に向けて「桜花」(人間爆弾)を発射するカタパルト基地約 10 か所が計画された。大坊(おおぼう)、稲成、万呂、三栖(みす)(衣笠山)、上秋津、下秋津、朝来(あっそ)(西山)、生馬(いくま)、岩田、岡など、小学校の沿革史に基地建設工事のための軍隊の駐屯が記録されている。



特攻基地計画②：爆弾を船首に装備したベニヤ板製のボートに兵士 2 人が乗り込んで艦船に体当たりする「震洋」嵐基地。フィリピンや沖縄戦では 2000 人以上が戦死した。現在は「鳥の巣平和公園」として整備され「震洋」のレプリカが展示されている。

☆震洋鳥の巣平和公園 〒646-0011 和歌山県田辺市新庄町 3 8 2 1

いずれの特攻基地建設も未完成のまま終戦を迎えたので「幸い」実戦に使われなかった。



南太平洋の米軍基地から日本本土の上空に戦闘機・爆撃機がアクセスするために紀伊半島上空のルートが多く使われた。和歌山県南部には阪神間や和歌山市などへの爆撃を終えて南洋基地へ帰還時に機体を軽くするために爆弾が投下(投棄)された。「臨機目標」となったのは、軍隊関係や輸送設備だけではなく一般施設やカツオ漁船などが含まれる。

《参考資料》

『紀伊民報』2014 年 8 月 16 日記事ほか

『田辺市史』、『上富田町史』、『白浜町史』

中村隆一郎著『続・和歌山県の空襲聞き書き拾遺』、東方出版 2000 年

伊勢田 進著『田辺の海兵団小史』・『田辺海兵団神子浜一体験・追憶記』

古久保健著『轟音—B29 墜落の記』2006 年、『轟音—その後』2016 年

中央評論『日本全国 B29 慰霊碑物語』2017 年、『続編』2018 年










*問い合わせ：石井望神父(紀伊田辺教会)

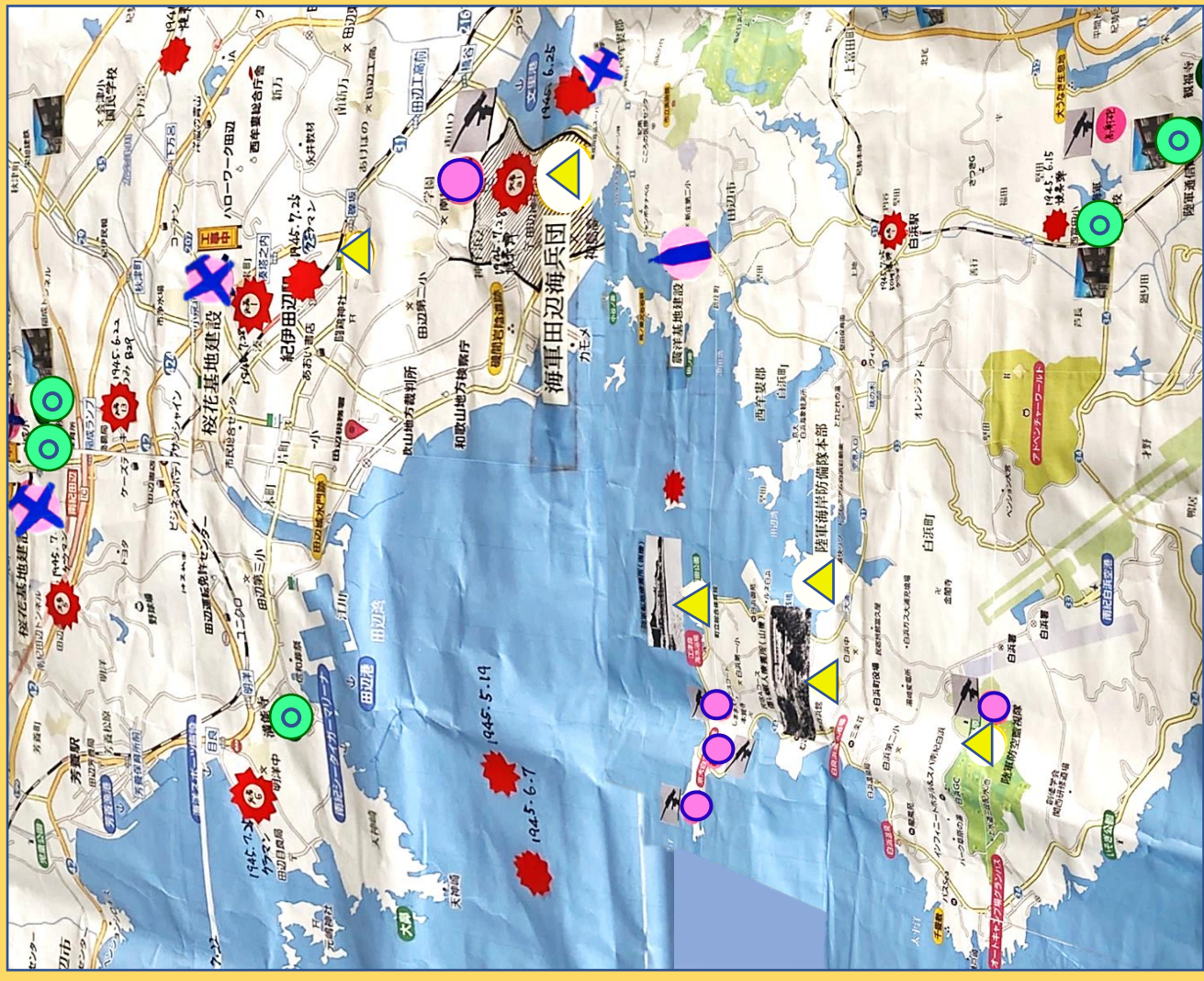
E-mail : isnozomi@gmail.com

紀南の戦跡

< 田辺海兵团/特攻基地建設/海岸防備隊駐屯地/爆撃・戦災 >

凡 例

-  爆撃被害 ○内は死者数
-  特攻基地・攻撃施設
-  桜花
-  震洋
-  高射砲
-  軍関連施設
-  海岸防備軍駐屯地
-  ○内は駐屯兵数
-  接收された国民学校









戦争と平和を考える シナピス貸出資料の紹介







日本のカトリック教会では、毎年8月6日から8月15日までを「平和旬間」と定め、戦争を思い起こし、平和について考え、語り、祈り、行動することをすすめています。シナピスでは戦争や平和に関するDVD資料や書籍を無料で貸出しています。平和を考えるヒントとしてぜひご活用ください。

語り継ぐ・平和を作るヒントに

題名	内容
 しではら〜かどま市が生んだ日本の総理〜 (40分)	世界各国が一斉に武力を捨て平和な社会を作るのは「狂人の夢」にすぎないのか。日本国憲法の草案を作った門真市出身の総理大臣幣原喜重郎が私たちに託した想いと。 2020年/監督 齋藤勝
 コスタリカの奇跡〜積極的平和国家のつくり方〜 (90分/短縮版57分)	1948年に軍隊を廃止したコスタリカは、軍事ではなく教育や社会福祉など人に投資する国づくりを選んだ。武力なしでも人も国も守ることを可能にしたコスタリカの人々の知恵から学ぶ。 2016年/監督 マシュー・エディー、マイケル・ドレリング
 続いのちの道 一戦争体験者と戦争を知らない世代の語りの場として	戦争体験者の手記集。こども、孫世代が戦争を体験した家族から聞き取りをした証言も掲載。 2014年/社会福祉法人ミッションからしだね
 原爆写真 ノーモア ヒロシマ・ナガサキ	一瞬の閃光に焼けただれ、命を奪われた人、人、人。みな誰かのかけがえのない存在だった。生き永らえても消えない恐怖。核の現実が胸に迫る写真集。英語表記あり 2005年/日本図書センター

こどもたちと考えるヒントに

題名	内容
 終戦70周年特別企画 杉原千畝 (139分)	第二次世界大戦下、ナチスの迫害から逃れてきたユダヤ難民にビザを発給し、6千人もの命を救った1人の日本人外交官がいた。何が彼を動かしたのか。 2015年/監督 チェリン・グラック
 もうひとつのヒロシマ 一秀男と千穂の似島物語	戦時末期、広島県の似島に1万人を超える被爆者が検疫所に運び込まれた。戦後はその建物が戦争孤児を収容する孤児院に。こどもの目から見たヒロシマ。 仲里三津治作/2008年/講談社
 焼けあとのちかい	作家半藤一利の戦争体験を描いた絵本。戦争はこどもからも日常を容赦なく奪う。2019年/文、半藤一利、絵、塚本やすし/大月書店
 新・戦争のつくりかた	戦争をしないと決めた日本が、いつのまにか戦争のできる国になっていく道筋を描いた作品。 2014年/文、りぼん・プロジェクト、絵、井上やすみち、マガジンハウス



オンラインでも・・・

NHK 戦争証言アーカイブス：開戦前から現在まで日本は何をめざしてきたのか、市民の証言や各種映像資料から戦争と暮らしを振り返ることができます。

<https://www2.nhk.or.jp/archives/sensou/>

*このほかのDVD資料や書籍もありますので、お気軽にお問い合わせください。

貸出方法：まず電話かメールでお問い合わせください。貸出期間は原則2週間です。

郵送での貸出もできます（郵送料はご負担お願いします）。

シナピス事務局 TEL: 06-6942-1784 FAX: 06-6920-2203
MAIL: sinapis@osaka.catholic.jp

ニュース5月号の呼びかけに応え、ロキアさん一家へ多くの寄付品をお送りくださり有難うございました。早速頂いたものを埼玉のロキアさん一家へ送りました。とても喜び皆様に感謝を伝えて欲しいとメッセージが届いています。

متشكرم
(ありがとう)



ラマダンが終わった後のロキアさん一家は、現在も埼玉県で暮らしています。日本に暮らす多くのアフガニスタン人は千葉、埼玉と関東エリアに多く住んでいて、中には医師であるロキアさん夫妻が日本に来るのを心待ちにしていた人もいるとこと明らかになりました。そこで、私たちは当面ロキアさんには関東地域の助けを必要とするアフガニスタン人のために埼玉に拠点を置いて働いてもらう事にしました。

5月29日シナピススタッフは、すでにロキアさんが相談を受けたアフガニスタン人女性たちの現状を知るために現地視察に行きました。

◆埼玉県四街道市◆

四街道市には在日アフガニスタン人 500 名以上がお金を出し合って造ったアフガニスタン文化センターがあります。とても立派な建物で、モスクとしてお祈りや、各種集会をしたり、子どもたちに母国の言語や文化を教えるために使っているとの事でした。



そこに 4 名のアフガニスタン人女性相談者が集まってくれました。皆様々な悩みや生活上の困難を抱えていることが分かりました。

女性たちが最初に話したことは医療差別でした。アフガニスタンでは女性は女性医師に診察を受けるというイスラムの戒律に基づく文化があります。女性医師が全くいない地域では男性医師に診てもらおう事が許されるそうですが、一人でも女性医師がいると分かった場合は必ず女性医師の診察を受ける必要があります。日本でそれを病院に伝え

ても、「医師は選べません。女医が良いなら自分の国へ帰って診て貰ったら？」と言われてしまうようで、病院へ行くことが難しいということでした。日本人の私たちですら女性医師に診て欲しいということはありません。実際にシナピススタッフの私も婦人科では女性医師が良いと伝え拒まれたことはありません。アフガニスタン人女性の希望を拒むのは明らかな外国人差別だと実感しました。

次に近年住居が借りにくくなっているという問題でした。不動産屋、貸主の言い分はゴミ出しのルールや騒音の問題に対して外国人は理解が出来ないからとのことでした。しかしこれは言い換えれば理解すれば出来ること、異文化から来た人が日本のスタイルに馴染めるように手助けをする人がいれば解決すると思いました。

次に子どもたちの学校問題です。学校に行っても言葉が分からないため先生と分かり合えないということでした。説明すれば互いに理解できることも言葉が壁となり弱い立場におかれてしまっています。



通訳を出来る人は街に1人しかおらず、費用は1件1万5千円と高額でとてもではないけれど頼めないということでした。

彼女たちも全く日本語が出来ないわけではなく、ゆっくり話すとポツポツと日本語で話してくれました。日本語でちょっと仲介役をしてくれる日本人がいれば多くの事は解決へ導けるのではないかと思います。

現在、ロキアさんは日本語の勉強を独学で頑張っています。私たちと会議をするたびに新しい挨拶や言葉話してくれますが、通訳をするまでには十分ではありません。医療知識があり彼女たちの文化背景を理解できるロキアさんには日本語取得が急務だと実感しました。

◆埼玉県野田市◆

野田市では、イスラム教スンニ派の女性のお宅に訪問し現状を聴きました。3LDKの一軒家に3世帯24人が暮らしていました。イスラム教スンニ派は戒律が厳しく、男女が公の場で交わることを禁じられているため、この日は近隣に住むアフガニスタン人女性と子ども達だけが25人以上集まってくれました。女性や子どもたちは全員素敵な民族衣装で出迎えてくれ、とても美しいので記念写真を撮りたいと伝えましたが、宗教の戒律でベールを被っていない幼い子ども以外写真撮影は禁止だと言われました。とても残念でした。

(→昼食でおもてなしをしてくれました)



ここでも問題は医療差別、言葉、子どもの学校でした。医療問題は四街道市と同様に女性医師に診てもらえない、言葉が分からないため妊娠しているが月齢が分からないなど深刻なものでした。

なかでも、一番深刻だったのは子どもの教育問題です。集まった子ども達は幼児から高校生まで。小学校高学年、中学生、高校生の数名は学校に通っていないと言いました。理由を聞くと「おもしろくないんだもん」と教えてくれましたが、実際は親が学校に行かせていないとロキアさんが教えてくれました。

聞くと戒律の厳しいスンニ派の家庭では、公の場で男性と同じ場にいることが許されないため、女性と子どもは家の中に閉じ込められる傾向にあるとの事でした。男性は働くため出かけるので、職場である程度日本語を習得してきますが、女性は日本語や日本の文化を学ぶことなく過ごし、社会との繋がりが断たれているようでした。

どの家庭も平均5,6人の子どもがいて大家族が同居していることは珍しくないということでした。出会った子どもたちはやせ細り、ロキアさんによると栄養失調状態とのことです。ここでも女性たちのロキアさんへの期待は大きく、早く日本語を習得して病院、学校へ同行して欲しいということでした。

今後シナピスは関東地域在住のアフガニスタン人を助ける活動を始めます。

みなさまどうかこの活動にご協力をお願いいたします。 寄付はこちらから▶▶▶





シナピスホーム便り



統一マダン生野に出店しました!!

6月5日

山田 直保子

今回の統一マダン生野の出店は、三線の演奏会をして下さったコリアボランティア協会の紹介で、フードを出す店が少ないとの事で声をかけてもらいました。ミーティングを重ねイラン、ブラジル、スリランカの多国籍プレートに決定。買い出しも各自で大阪にない食材などは注文し、配達してもらいました。豆を求めて桃谷の商店街や安い肉を求めてコストコに行ったり、弁当箱を探しに業務用スーパー、コーナン、コストコなど探し回り、お店用のテイクアウト容器専門店を見つけ購入したり。

前日4日(土)は朝から調理開始。

スリランカ人女性は息子連れてきてくれて、よく手伝ってくれました。スリランカ料理カタレットは玉ねぎのみじん切りをたくさん必要とするので、100個作る為にフードプロセッサーでするのかと思いきや、機械は水分が出て、細かくなりすぎると全て包丁で切ります。私も手伝い3時間くらいかけて大量のみじん切り。鯖缶、ジャガイモ、玉ねぎみじん切りにスパイスを合わせてタネを作り、ゆでた卵の周りにタネをつけて、卵、パン粉をつけ、とにかく100個と数が多いので、長テーブルに順番に置き、流れ作業で行いました。

イラン料理ゲイメンは、イラン人男性3人で2階のキッチンで調理。100食分作るのが初めてで戸惑いも多く見られました。牛肉1.5kg購入しましたが、全く足りないと豚肉をさらに購入。その上に、脂が足りないとスーパーで無料でもらえる牛脂を4個、5個と放り込みます。私が驚いていると「これは私たちがよく使いますよ。味美味しくなる」と言われ、イラン料理は野菜中心だと思っていましたが、とんでもありません。野菜を炒めるときも私たちならサラダ油を少し入れて炒めるが、イランは野菜がおぼれているくらい使っていて衝撃的だった。全然ヘルシーではなかった…。

ブラジル人男性はフードプロセッサーを使い、素早く調理していました。今回はフェイジョンの肉を、フードバンクのハンバーグが大量に残っていたので、それを使ってもらいました。ハンバーグの味がまったくないからとベーコンをプラス。にんにくをたっぷり効かせ美味しく仕上がった。

さあいよいよ当日!



朝7時前より始動。1階キッチンではカタレットをどんどん揚げていく。なんせ100個。油もすぐに泡だらけになるくらい大量。2階キッチンでは、ゲイメンに添えるナスとポテトフライを揚げていきます。こだわりが強いイラン人たち。絶対に他の人にはさせない。白ご飯をどんどん100gに量ってラップに包んでいく。全員、手がすりそうになるくらい頑張ってくれて、自分の物が終われば手伝いほしい?と声を掛け合っていた。

9時半くらいにはすべての料理が完了。次は荷物を車に積んで運びました。料理が完成し、ホッとしたのか、みんな笑顔も多くなり、いつもの冗談が飛び交うようになっていきました。フェイジョンとゲイメンはずっと火にかけとかないと、暑さで痛んでしまうので、弱火で火にかけておく。カタレットは油を吸収するテイクアウト用の包みに入れていく。工房商品も販売のため並べ、作品のティッシュケースカバーは上の看板横に貼りつけた。





12時から開始予定だったが、夕方からの雨予報で、前倒して11時40分くらいにはスタート!

すぐにプレート6個の注文が入って、ブラジル人男性がフェイジョン、イラン人男性がゲイメン、スリランカ人女性がカタレットと、スプーンとおしぼりとチラシが入った袋をプレートの上に置いて渡しました。持ち帰り用に袋にまとめていれるかどうかもお客さん一人一人に聞いて、すぐに食べるという方には、そのままお渡しすることができていました。

それからは、ぽつぽつと売れていく印象。天気が曇りで体力を消耗することなく、みんなで声をあげて売り出します。来客数も思ったより少なくパニックになるような事もなかったので、順番に休憩に行ってもらおうと声かけました。昼食を他の屋台で買って休憩するよう言うが、気なるのか責任感からかみんな買わずにすぐに戻ってきて自分たちのテント周辺にいました。



感心したのはスリランカ人女性です。恥ずかしがり屋であまり表に立ちたくない彼女ですが、大きな声を出して「いらっしゃいませ〜美味しいですよ〜」と声かけ、お客さんに話しかけられても、ちゃんと説明し、ニコニコとして、お客さんに写真を撮られて見せられると「ありがとう〜」と返し、私が「大丈夫か」と聞くと「マスクあるから。でも私、写真もらえないな」と笑っていました……。という大きな心が見える一面もありました。やはり百戦錬磨で苦勞してきた女性は肝が据わっています。イザというとき決して慌てないのです。私も安心して任せる事ができました。

みんな屋台を見ながら売り子に徹して、カフェに来てくれる方や、常連親子、顔見知りの方の顔を見つけると満面の笑みになっていました。映画「ワタシハニンゲンの高監督も寄っていただきました。スタッフのダーリンや私の友達も来てくれました。色々話しかけてくれるお客さんも多数いて、シナピスとは何ぞや、難民とは何ぞやとお話したりできました。社協でスタッフの講演を聞いたと言われる方や、常連さんが勤務する社協職員で市会議員の方も来てくださりシナピスホームの話聞いてたから、会えてうれしいです」とおっしゃっていただきました。募金箱を持っていったのも大正解でプレートが600円だったのも幸いして、お釣りの400円を募金してくれる方が数名いて、プレート購入後チラシを見て千円入れにきてくれた方もおられました。

早倒して3時過ぎにはもう終わりそうな雰囲気。今にも雨が降りそう。カフェの常連さんのお一人が遅くにこられ、片付けの中隣のテントで食べていたものの、そのテントを片づけられるというハプニング。なんて失礼なんだとムカムカ。私たちも撤収し、車に積んでホームへ戻り後片づけをしました。



今回初めての出店。とても満足した内容ではなかったし、売り上げも悪かったですが、とても良い勉強になりました。自国料理にとてつもない強い誇りを持っている難民移住者たちは絶対に人の意見を聞きません。でも完売しなかった原因を「量が多かった」「デザイン、色味」「酒のつまみが売れていた、少量がいい」「人が少なかった」などなど、シナピスでは散々言っていた予想していた事を、やっと彼らはわかったみたいでした。それだけでも大成功と言えます。イラン人男性2人は美味しいから1時間でなくなると予想していましたが、「今回勉強になった」と反省していました。彼らを尊重して、好きなようにしてもらって、勉強になったなら、それが一番よく理解できるし、いいことです。ブラジル人男性は「次はこれにする」と野菜と肉の串刺しの写真を私に見せました。スリランカ人女性は「BBQして売ってた。それいい」と考えていました。イラン人トリオは「次はケバブかナン包みかどちらにしましょうか」「牛は高いから鶏がいいね」と笑っていました。みんなはもう次の事を考えています。

朝早くから頑張っていたため、疲れ切っていましたが、「気持ちいい」「楽しかったな」と言って、充実した疲れを物語っていました。目はキラキラして死んでおらず、次の祭りはいつかなと楽しみにしながら反省点を話している彼らを見て、私も本当に出店してよかったと思いました。売り上げがマイナスになっていたとしても、本当にやる価値はありました。彼らの目がそう言ってました。

6月の祈りの集い



写真:金井創牧師提供

シナピス主催第9回「祈りの集い～世界平和のために祈る～」を5月12日に行いました。5月15日に本土「復帰」50周年を迎えた「沖縄」をテーマに、60名以上の参加者と共に祈りを捧げました。

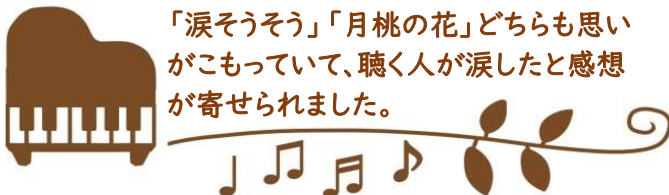
司式は日本基督教団佐敷教会金井創牧師が務めてくださいました。金井牧師は16年間沖縄県辺野古新基地建設抗議活動に関り、毎日辺野古の海へ抗議船を出しておられます。時に絶望を感じる活動を諦めずに続けられるのは神様から心に注がれた愛=希望があるからであり、県外の人たちが思いをつなげてくれていることが励みだと仰いました。

今回の集いは私たちと那覇教区の一の信者さんとの繋がりから輪がひろがりました。沖縄へフィールドワークに行った広島県の高校を紹介していただき、2校の高校生たちがその時の思いを込めて共同祈願、聖歌を捧げてくれました。また「遺骨土砂問題」（遺骨収集がされていない沖縄地上戦跡の沖縄県南部の土砂を使い辺野古の埋め立てを行う計画）の抗議活動をされている日蓮宗日本山妙法寺の僧侶武田隆雄上人、人権活動に取り組んでいるカトリックの神父、本土に住む私たちから沖縄への思いを大阪教区の信徒がそれぞれ共同祈願で祈ってくれました。年代や地域は全く違うけれど「沖縄」に馳せる思いは皆同じ、様々な立場から「沖縄の平和、世界平和」を共に祈りました。那覇教区にも協力をいただき、写真の提供とウェイン司教の平和のメッセージを送っていただきました。「沖縄への思い」を通して宗教、年齢、地域、教区を越えて繋がり集えたことに感謝いたします。

地上戦で苦しみ、今なお本土が押し付けた基地問題、経済問題で苦しみ続ける沖縄の現状を知り平和な社会づくりのために自分たちには何ができるかを考えるきっかけとなる集いでした。

広島女学院高等学校 生徒のみなさん

素敵な歌声を有難うございました。
「涙そうそう」「月桃の花」どちらも思いがこもっていて、聴く人が涙したと感想が寄せられました。



広島学院高等学校 生徒のみなさん

共同祈願を捧げてくださりありがとうございました。祈りから若者のエネルギーを感じました。



次回は7月14日(木)20時半～
テーマ:「みことばから平和を考える」
Zoom ミーティング ID: 761 071 2034
パスコード: 123456



シナピス工房 だより

6月はシナピス工房作品を皆様に直接お届けできるイベントがいくつかありました。6月4日に東京で行われた「難民・移民フェス」の様子と、6月14日、15日に梅田教会で行われた管区司牧者研修会での様子をお伝えしたいと思います。

◎難民・移民フェス



◎難民・移民フェス

移住と連帯する全国ネットワークが主催する「難民・移民フェス」がシナピスも声をかけてくださり、参加をさせていただきました。開催地が東京だったため、シナピスからは作品を委託して、寄付を募って頂きました。

当日は800名を超える方が参加する盛況ぶりでシナピスの作品もほぼお持ち帰りいただき、6万円を超えるご寄付を頂戴しました。

ご寄付くださった方、ご協力くださったスタッフの皆さま本当に有難うございました。

管区司牧者研修会

梅田教会で行われた管区司牧者研修会の会場の片隅に酒井司教様の計らいでシナピス工房作品を置かせていただくことになりました。また、総勢120名を超える司牧者の皆さまの前で製作者の移住者たちが作品を紹介させて頂く時間も頂き、前日から挨拶文を考え練習し本番に臨みました。マイクを持ったとたん頭が真っ白になり、考えていた文章が上手く言えなかったり、すべて忘れてしまったり色々なハプニングがありました。

持参した作品の中には早々となくなってしまう物もあるくらい好評で、寄付額は4万円を超え、移住者たちは自分たちが製作した作品で寄付を募れたことに大きな喜びと達成感を味わう事が出来ました。今後はシナピス工房も開催が増えつつあるイベントに積極的に参加をしていきたいと考えています。

みなさまご協力を頂き有難うございました。



シナピス工房では引き続きボランティアを募集しています！

★ミシンで縫物★革やフェルト使って工作★色々な糸で編物、などをしてくださる方

カトリック大阪大司教区社会活動センター・シナピス

〒540-0004 大阪市中央区玉造-24-22

TEL 06-6942-1784 ・ FAX 06-6920-2203

連絡先 ▶▶▶

投稿欄 “ガリラヤの風”



イエスならば どのように行動するだろうか

香里教会 北川光裕

フランシスコ教皇による 2022 年復活祭メッセージにて盛り込まれた世界情勢の中では、細やかな扱いながら明白に彼の政治的態度の変化が読み取られる内容が目を引きました。「カナダのカトリック教会が歩んでいる先住民族との和解の道」、これは、カナダの先住民の子どもたちが同化政策として強制的に住まわされたカトリック運営の寄宿学校の跡地から昨年 215 体の子どもの遺体が発見されたことに端を発した一連の事件で、4 月 1 日に教皇が先住民の代表団と面会し謝罪したことに纏わるものでしょう。

2015 年 7 月に教皇は、南米を植民地化したカトリック教徒が先住民に対して行った犯罪について、踏み込んだ表現で謝罪をしています。しかし、周知のように 2019 年 3 月、侵略から植民地の時代における人権侵害に対するメキシコ政府による謝罪要求に対しては、スペイン政府による断固拒否の姿勢を慮ってか、バチカンには正式な返答を避けました。

また 2019 年世界宣教の日の教皇メッセージでは、彼の歴史認識に近年厳しさを増す科学界からの批判を軽視する向きが見受けられます。「ラテンアメリカとカリブ諸国にとって、キリスト教信仰を受け入れるとは何を意味するのでしょうか。それは、先祖が知らず知らずのうちに、その豊かな伝統の中で探し求めてきた未知の神、キリストを知って受け入れることを意味します。……それはまた、洗礼の水を通して、神の養子とする神聖ないのちを受け取ることも意味します。さらには、彼らの文化を豊かにし、受肉したみことばによって植えつけられた多くの種とその芽を清め、はぐくむことにより、彼らを福音の道へと導く聖霊を受けることでもあります。……イエス・キリストのうちに人となられたみことばは、歴史となり、文化ともなりました。キリストと普遍教会から離れ、コロンブス以前の時代の宗教をよみがえらせることを理想とすることは、前進ではなく後退です。それは、歴史上の過去のある時点への退化にほかなりません」。これは、同メッセージの中で 2007 年の前教皇の発言の引用であることを示した上で、フランシスコ教皇自身のことばとして述べられたものです。

真意はともかく、彼が国際的な人権意識の拡充やコロニアリズムに対する批判の高まりに通じていなかったとは到底言えません。真摯に歴史と向き合った 2015 年の彼の行動を政治的パフォーマンスだと揶揄されないうためには、宣教の名の下で為された全ての人権侵害に対する歴史的責任を一貫して追及する姿勢が必要です。決してその後の経済発展を神の御業とすることを隠れ蓑にはしてはいけません。幸い 2021 年 9 月に教皇はメキシコ政府への書簡にて「極めて痛ましい過去の誤りも認める」と記し、スペインがアステカを征服した際にカトリック教会が先住民への迫害行為を行ったことを事実上謝罪しました。冒頭の経緯がこの望ましい傾向の流れにあることを願います。

カナダのトルドー首相は「謝罪は歴史的過ちを正すために過去の真実を認める一歩だが、まだなされるべきことがある」と述べています。それは、捜査に全面的に協力し犯罪者に司法当局の公正な裁きを受けさせることでしょう。

これは当然ながら聖職者らによる性的虐待の問題にも言えることです。

地上でもっとも小さいといわれている種子、それがシナピス（からし種）です。

イエスは神の愛がすべての人におよび、互いに尊重し合い、愛し合うように願って平和の種をまき、やがて鳥が巣をつくるほどの大きな木になると約束しました。

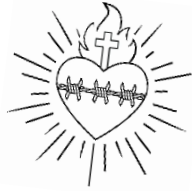
シナピス年間テーマ ～互いに耳を傾けよう～

シナピスの風

* 行事はコロナ感染症の影響で延期または中止になることがあります。ご参加の際は連絡先にお問い合わせください。

第 1150 号 2022 年 7 月 1 日発行

7月の祈り



人類の父である主よ、
あなたはお造りになったすべての人に、
分け隔てなく尊厳をお与えになりました。
わたしたちの心に、
兄弟姉妹への愛を目覚めさせてください。

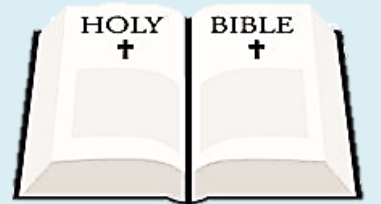
あなたが一人ひとりのうちに蒔かれたよいもの
美しいものに気づき、
一致を深め、共通の課題に取り組み、
希望を共有してきずなを強めるために、
わたしたちの心が
地上のあらゆる民族と国々に開かれますように
アーメン。

(教皇フランシスコ、「兄弟の皆さん」287)より

シナピスでは、毎月のお祈りをニュースレターとともにお送りしております。教会で、ご家庭で、日々のお祈りにお使いください。シナピスのホームページからも、ダウンロードしていただけます。

オンライン祈りの集い～世界平和のために祈る～

7月14日(木)20時半～(30分)
テーマ:「みことばから平和を考える」
司式:中井淳神父(広島教区司祭)



Zoom ID&パスコード(100名まで参加可)
ミーティングID: 761 071 2034
パスコード: 123456



シナピスカフェ



★毎週水曜日 13時ごろ～16時ごろ
7月の開催: 6・13・20・27
★月1回土曜日 11時ごろ～16時ごろ
7月の開催: 17 **軽食付き**



シナピスホーム: 生野区中川6丁目6-23 ☎: 080-8940-8847

カトリック大阪教区・部落差別と人権を考える「信徒の会」 8月の学習会

天皇制のAとΩ 最終章 『千代田一番一号のラビリンス』 ～地下迷宮の謎に挑む～

日時: 2022年8月20日(土) 14:00～16:00
場所: サクラファミリア4階会議室
発題者: 太田勝神父(福音の小さい兄弟会)

「Part V 生前退位と「天皇制か共和制か」を話しましょう」
から4年、今年3月出版の退位前の両陛下を主人公とした
小説「千代田区一番一号のラビリンス」森達也著を取り上
げて話し合いたいと思います。

連絡先: 信徒の会 06-6939-9771 ※どなたでも参加可

☆シナピス工房メール会員募集中! ☆

最新のカatalogが出来次第お送りいたします。

登録ご希望の方は下記メールアドレスへご連絡もしくは
右側のQRコードからご登録をお願いいたします。
メールアドレス: sinapis@osaka.catholic.jp



是処青山 「死刑を止めよう」宗教者ネットワーク 第32回死刑廃止セミナー

日時: 2022年7月12日(火) 18:30～20:00
場所: カトリック大阪大司教区本部事務局 1F 集会室
講師: 李哲 <イチョル> さん

資料代
500円

配信: YouTubeにてLIVE配信(申込不要) <https://tinyurl.com/m9yzn885>

主催: 「死刑を止めよう」宗教者ネットワーク

共催: シナピス / アムネスティ 他

連絡先: kaiho@higashihonganji.or.jp 携帯 090-4571-5510 (阪本)



シナピス公式LINE
が出来ました!

さまざまなお知らせや情報を発信!
友達追加は下記QRコードから



ボランティアさん募集中

- ★運転(送迎や荷物の運搬)
- ★ことば(通訳・翻訳)
- ★同行支援(役所や病院へ付き添い)
- ★工房(工作、裁縫好きの方)

シナピスまでご連絡をください
お待ちしております!



支援のお願い

おかげさまでパスタ、体温計は沢山のご寄付をいただきました。
日持ちのする食品、ハラル食品、不織布マスク、
米などのご支援をお願いいたします。

感謝



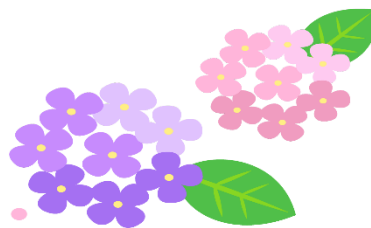
カトリック大阪大司教区 社会活動センター シナピス
Tel 06-6942-1784 Fax 06-6920-2203
URL: <https://sinapis.osaka.catholic.jp/>

「点訳版」「音訳」
ご希望の方はシナピスまで
お申込み下さい。

みんなのけいじばん



6月も食品や衣料品、
シナピス工房に手芸用品など沢山のご寄付を頂きました。
いつもありがとうございます。



シナピスも出演している在日外国人の実態に迫る映画 「ワタシタチハニンゲンダ！」

感想募集！

ご覧になった方も多いのではないのでしょうか。是非感想をお聞かせください。皆様の感想をより多くの方と共有し、日本に暮らすすべての人の人権が守られる社会づくりを考え行動していきたいと思っています。

誌面の都合上、恐れ入りますが、最大 600 字程度まで、メール、郵送、FAX、電話でお寄せください。
投稿先:カトリック大阪大司教区社会活動センター・シナピス
〒540-0004 大阪府大阪市中央区玉造 2-24-22
TEL 06-6942-1784 FAX 06-6920-2203
E-mail : sinapis@osaka.catholic.jp



◆大阪教区からお知らせ◆

INTERNATIONAL DAY 2022 インターナショナルデー (旧国際協力の日) —開催決定—

「外国人が暮らしやすい社会は日本人も暮らしやすい」

2022年10月16日(日) ミサ 11時 大阪カテドラル聖マリア大聖堂、ミサ後、駐車場で交流会
(※詳細は追ってお知らせします)

正義と平和大阪大会

正義と平和大阪大会で開催した分科会の録画の一部を公開します。
教区ウェブサイトの正義と平和大阪大会のページをご覧ください。

わたしたちもできる ハガキで訴えよう！

沖縄の声をうけて、わたしたちもハガキを出してメッセージを届けませんか？

沖縄戦戦没者の遺骨が混じる土を基地建設につかわないで！！

私たちだけではどうすることもできない

40年にわたりボランティアで戦没者の遺骨を集め供養をしてきた具志堅隆松さんは、政府が遺骨の含まれる土砂を基地建設に使うことを計画していると知り、反対活動を続けています。昨年に続き今年も6月22日、23日に、仲間とともに摩文仁の丘の平和祈念公園でハンガーストライキを行いました。多くの県民、県外の支援者も激励に訪れましたが、その中のひとりで沖縄県名護市にお住いの大城松健さんに、電話でお話を伺うことができました。以下はそのお話です。

「沖縄慰霊の日にこの摩文仁の丘を訪れたのははじめてでした。具志堅さんと会うのは2度目、彼がなぜここまでするのかと考えたら、それは戦争の犠牲者の声なき声を聞いたからだと思います。どこの誰かもわからない土に眠った遺骨、その土を基地建設に使うなんてこれは亡くなった方々への冒涇じゃないですか。その気持ちを強く、強くおもちで、突き動かされているんだと思います。

私の母は親戚家族13名のうち激戦地南部で11名がなくなり、生き残ったのは私の母と叔母の2人だけ。当時のことは私が20代のころからずっと聞かされてきました。慰霊の日に摩文仁の丘に行ったのは今日がはじめて。ハンストのあとに、母方の祖父の名前が刻まれた礎の周りを歩きました。1時間ほどかけてゆっくり、一つ一つ見ているとアメリカ人兵士の名前が刻まれたものも多いんです。これも戦争の犠牲者なんだよね。北海道など県外の名前も多いんですよ。亡くなったのは20万人と、とてつもない数字だけれど、礎に刻まれた名前をみて、ここにはひとり一人の尊いのちがあるんだよね、その重みを感じた。



仲井眞沖縄県知事時代に埋め立てを承認したあと、稲嶺進名護市長と玉城デニー衆議院議員が、『多くの沖縄県民は基地建設を反対している』と米国政府に訴えるために訪米したが、その反応は非常に冷たかった。その報告会に参加した時に、稲嶺さんが会場に向かって『私たちだけではどうすることもできない、皆さんの力が必要なんです』といった言葉に胸がズキンときた。それまでノンポリで生きてきた私もその時から基地反対の声をあげるようになった。自分が理屈抜きに意思をもった目には見えない何かに導かれているような気がします」

※同封の沖縄県知事、内閣総理大臣、防衛大臣宛てのハガキをご利用ください。(要切手)

署名のよびかけ

「授かるいのち 未来につなごう」

経口中絶薬反対の署名にご協力を！

7月13日は「生命尊重の日」です。昭和23年7月13日、中絶を合法化した優生保護法(現在の母体保護法)が公布されたことにちなみ、昭和59年に胎児の「生命尊重の日」実行委員会により制定されました。

生命尊重とは真逆の考え方である胎児の生きる権利を奪う経口中絶薬が今年中にも、国内で承認されそうになっています。この薬は母体に肉体的にも精神的にも負担が大きく適切に使われず死を招く危険性すらあり、安易に承認されようとしていることに大きな問題があります。どんないのちも守られる社会になるよう行動しましょう。詳しくは同封のチラシをお読みください。



シナピス



公式 LINE アカウント
ができました~!!

公式 LINE アカウントでは、さまざまなお知らせや情報を発信しています
下記 QR コードから追加してください



HP はこちらから▶

<https://sinapis.osaka.catholic.jp/>



活動へのご支援ご協力

よろしくお願いたします。

郵便振替 00960-7-61419

加入者名 カトリック大阪大司教区シナピス



難民移住移動者支援もよろしくお願いたします。

支援物資提供のお願い
米、缶詰、ハラル食品、レトルト食品
テレフォンカード、不織布マスクなど

お電話をお待ちしています!!
☎06-6942-1784

あとがき

平和の詩を沖縄慰霊の日の式典で朗読した小学2年生の徳元穂菜さん。佐喜眞美術館の沖縄戦の図から、肌身で感じ取った恐怖とお母さんのぬくもりを「こわいをして、へいわがわかった」と表現しました。この言葉をわたしたち大人はしっかりと受け止めなければと思います。

こわいことからはどうしても目をそらしたくなりますが、こわいを知らないことほどこわいことにはないです。子どもの時、「危ないから、刃先を人に向けてはいけない」と刃物などの扱いについて親や先生から教えられましたが、銃など武器の使い方を習うことはありませんでした。憲法に守られているからこそ、人の命を奪うものを手にするなんてことは当然なかったのです。でも、これからはどうなるかわかりません。一般人の私たちも銃を手になければならない時がくるかもしれないと、今の改憲に向けた動きをみていて強く感じます。

10日には参議院選挙を控えています。有権者は、「過去の過ちを知り、二度と繰り返さない」という決意で一票を投じる責任がありますね。(H)

▽▲▽ シナピスの主な活動 ▽▲▽

◆広報活動

- ・教皇メッセージ、司教団メッセージ等 社会活動の指針の伝達
- ・読者と教会内外の社会活動をつなぐ 機関誌としてシナピスニュースを発行

◆大阪教区・社会活動委員会との連携

◆学習会研修会の企画

◆こども基金

世界・日本のこどもたちへの援助

◆カトリック中央協議会との連携

正義と平和協議会、難民移住移動者委員会、カリタス、部落差別人権委員会に委員を派遣

◆人権教育の講師を務めるなど教育機関への働きかけ

◆難民移住移動者支援

難民移住移動者の暮らしやすい社会を目指して

難民移住移動者 相談ダイヤル

☎ 06-6941-4999

アクセス

〒540-0004 大阪市中央区玉造 2-24-22

カトリック大阪大司教区事務局内



●公共交通機関ご利用の場合

JR 森ノ宮駅より 約 1000m

地下鉄中央線森ノ宮 2 番出口より 約 800m

JR 玉造駅より 約 1000m

地下鉄長堀鶴見緑地線玉造 1 番出口より約 800m

●車でお越しの場合

阪神高速 13 号東大阪線法円坂出口

法円坂交差点南へ上町を東へ

活動へのご支援ご協力をおねがいます

郵便振替 00960-7-61419

加入者名 カトリック大阪大司教区シナピス



忘れない あきらめないカレンダー

どんな状況下でも、忘れず、あきらめず、希望をもって歩む皆さまに、情報を配信します。



2022年 7月 の案内

★印 カトリック関係

2022年 祈禱の信徒 祈りの意向 7月

教皇の意向：高齢者

ルーツと記憶を体現する高齢者の知識と経験が、希望と責任をもって将来を歩む若者の助けとなりますように
日本の教会の意向：社会的孤立の予防
分断されていく社会の中で孤立する人々、社会から切り捨てられていく人々に寄り添い、
人とのきずなの中で生きる喜びを分かち合うことができますように

3	日	協同組合の国際デー
6	水	●戦争あかん!ロックアクション・御堂筋デモ ■場所:新町北公園 18時半 集会 19時10分 デモ出発 主催:戦争あかん!ロックアクション 連絡先TEL090-5063-0073(平日16時半以降、土日午後)
11	月	世界人口デー ●ドキュメンタリーを視て語るつどい ■場所:大阪市立北区民センター 18時 上映:「食品偽装大陸ヨーロッパ」「プーチンの道~その権力の秘密に迫る」 会場費:300円 主催:映像で現代を語る会 問合せTEL090-5151-9763(中森)
15	金	世界ユース技能デー
17	日	●第12回「日の丸・君が代」問題等全国学習・交流集会 ■場所:エルおおさか5階大会議室 10時~16時半 講演:「日本の入管制度と人権、『日の丸・君が代』と人権」(仮) 講師:空野佳弘さん(弁護士) 全国各地からの報告等 終了後デモ 参加費:500円 リモート参加可(無料) 主催:第12回「日の丸・君が代」問題等全国学習・交流集会 実行委員会 連絡・申込先TEL090-5900-0783(山田) ✉ imae@shore.ocn.ne.jp(井前)
18	月	ネルソン・マンデラ国際デー ●「海の日」反対!7・18大阪集会—額額厚(こうけつあつし)さん講演集会 ■場所:エルおおさか701号室 13時半~16時半 講演:「ロシア・ウクライナ戦争の真相を剥ぐー『単独派遣』を狙うバイデンの戦争」 講師:額額 厚さん(明治大学国際武器移転史研究所客員研究員) 参加費1000円(経済的に厳しい方は受付まで) 主催:参戦と天皇制に反対する連続行動 連絡先fax 06-6303-0449(関西単一労働組合)
19	火	●2022年参議院選の結果をうけて情勢討論集会 ■場所:エルおおさか708号 18時半 問題提起:富田宏治さん(関西学院大学法学部教授) 資料代:500円 主催:おおさか総がかり行動実行委員会 連絡先TEL06-6352-2923(大阪憲法会議・共同センター) 06-6351-0793(戦争させない1000人委員会) 06-6364-0123(しないさせない戦争協力関西ネットワーク)
23	土	●教科書と南京 ~消すことのできない南京大虐殺の真実 ■場所:エルおおさか・南館5Fホール 13時半開場 14時開演 講演:伊賀正浩さん(子どもたちに渡すな!あぶない教科書大阪の会) ドキュメンタリー映像と戦時資料「歴史修整主義のフェイクとわたしたちのツール」 解説:松岡環さん(銘心会南京・日中平和研究会代表) 資料代:1000円(学生500円) 主催:南京の記憶をつなぐ2022 連絡先TEL090-8125-1757 ●福島の海をこれ以上汚すな! ~イチエフの後始末と汚染水の海洋放出問題~ ■場所:尼崎市女性センター・トレピエ 14時~16時 講師:今中 哲二さん(京都大学複合原子力科学研究所研究員・元京都大学原子炉実験所助教) 参加協力金:800円(避難者、障がい者、学生400円) 主催:さいなら原発尼崎住民の会 連絡先TEL090-7497-3307(広畑)
25	月	世界溺水防止デー
27	水	●朝鮮戦争・休戦協定締結69周年 東アジアの恒久平和の実現をめざす7・27大阪集会 ■場所:PLP会館4階・中会議室 18時受付 18時半開会 講演:「尹錫悦政権下における韓日連帯運動の課題」 講師:韓忠穆さん(韓国進歩連帯常任代表) 韓国青年団体代表からのアピール 韓国ソウルからのリモート形式 資料代:1000円 主催:日韓平和連帯 連絡先TEL06-6583-5549
28	木	世界肝炎デー ●原発賠償・関西訴訟~第34回口頭弁論 ■場所:大阪地方裁判所 13時集合(傍聴抽選券配布のため)14時 報告集会等は未定 問合せ:原発賠償関西訴訟の応援団★KANSAIサポーターズ TEL070-5658-9566 http://kansapo.jugem.jp/ 原発賠償関西訴訟弁護団 梅田新道法律事務所 TEL06-6316-8824 fax06-6316-8825(白倉)
30	土	国際フレンドシップ・デー 人身取引反対世界デー ●生誕90年 没後15年 小田実の文学と思想を語り継ぐ ■場所:芦屋市民センター301号 13時半~17時 提起者:大橋毅彦さん(関西学院大学文学部教授) 福岡弘彬さん(関西学院大学文学部准教授) 玄順恵さん(画家) 主催:市民の意見30関西・小田実を読む会 連絡先TEL090-8149-7615(北川)
31	日	●戦時性暴力をテーマ 宮村信吾一人芝居 あの少女の隣に ■場所:スペースふうら 13時半開場 14時開演 上演・アフタートーク くるみざわしんさん(作・演出) チケット 要予約・当日清算のみ 前売り・当日共に2000円 申込先:TEL 090-1223-7120(平日12時~18時) 主催:「あの少女・木村さん」関西上演実行委員会 ●7.31 ロシアは今すぐ停戦し、撤退せよ! 総会&講演会 ■場所:エルおおさか南館・72号室 13時開場 13時半 シーサーネット年次総会 14時 講演会 講演:「ロシアのウクライナ侵略について」 講師:藤本和貴夫さん(大阪大学名誉教授) 資料代:800円 主催:しないさせない戦争協力関西ネットワーク(シーサーネット) 連絡先TEL06-6364-0123(中北法律事務所) 06-6575-3131(全港湾大阪支部)